

2017 年度事業報告

学校法人いいづな学園

I. いいづな学園 事業報告

1. 概要

学園の教育の充実を図るため、基本となる飯綱高原の自然の中での教育の意義とカリキュラムについて教職員で議論し整理をした。また、幼稚園とグリーン・ヒルズ小学校、中学校の連携について試行錯誤ながら積極的に取り組んだ。合わせて園児児童生徒数の確保に向けてオープンデイや広報の方法の改善に取り組んだ。まだまだ厳しい状況に変わらないが、グリーン・ヒルズ小学校の新入生や見学者がすこしずつ増え始めている。

2018年度開催の「親子自然教室」に向けて教職員の研修など準備を進めた。初めての学園全体でのサイエンスキャンプであり手探りではあるが、自然体験活動の充実に向けて進めることができた。

(1) 設置する学校

こどもの森幼稚園

グリーン・ヒルズ小学校

グリーン・ヒルズ中学校

(2) 組織・体制 (2017年3月末現在)

役員 理事長1名、理事7名、監事2名

評議員 16名 (1名欠員)

教職員数

正規教職員 17名 (うち育児時短勤務者1名)

常勤教職員 1名

非常勤教職員 11名

2. 施設・環境の整備

(1) パソコン環境を以下の通り整備した。

【パソコン】Windows Vista のサポートが4月11日に終了することを受け、パソコンを入替

幼稚園：デスクトップパソコン1台・ノートパソコン1台

小学校：デスクトップパソコン 大人用1台、子ども用6台

中学校：デスクトップパソコン 大人用2台、子ども用6台

事務局：デスクトップパソコン1台・ノートパソコン1台

【ネットセキュリティ】レンタルのセキュリティサーバーをバージョンアップ

【データサーバー】不安定になっていたサーバーを同様の形式で入替

(2) グリーン・ヒルズ保護者からのプロジェクト用の寄付金で、クロスカントリースキー用の靴・スキー・ポールを整備した。

(3) 園庭及び校庭の危険木を伐採し、学園内の安全の確保を図った。

II. こどもの森幼稚園 事業報告

1. 2017 年度教育目標の達成度

「いのちを慈しみ いのちを育む」という教育目標は、長年の自然体験による保育実績を活かした信州型自然保育の特化型施設として、基本的な部分はほぼ達成されている。該当年度は、長野県幼稚園協会より依頼を受け、北海道で行われた幼児教育実践学会で研究発表を行った。また、該当年度の重点目標を昨年度に引き続き「保護者との連携・連絡の充実を図る」としたが、保護者アンケートでは2016年度評価とほぼ横ばい（「あてはまる」「少しあてはまる」評価を合わせて98%）で、比較的高い達成度が得られた。これを受けて2018年度の教育活動における重点目標は、更に具体的な「子どもと親と先生が対話し考えて育ちあう教育」とする。

2. 組織・体制（2018年3月末日状況）

在籍数	57名（定員60名）
教職員数	12名（うち1名育児時短勤務、1名12～2月介護休暇取得）
本務教職員	9名（園長1、副園長1、教諭5、職員1、常勤講師1、事務1）
常勤教職員	1名（12～3月）
非常勤教職員	2名（保育補助）

3. 2017 年度事業報告

- 子ども達が樹木や昆虫などへの興味・関心を深めるため、お泊り保育で戸隠化石博物館へ行ってレクチャーを受けた。また、自然の中で活動や体験を、音楽・絵画・言語などの表現活動へ繋げるために戸外で歌を歌う、劇をつくるなどの活動を行った。
- 長野県幼稚園協会より依頼を受け、8月に北海道で行われた幼児教育実践学会において、昨年度の全日本私立幼稚園連盟東海北陸大会で行った研究内容について発表を行った。
- 月1回のつばみ子育てサロン開催及びそれに合わせた未就園児オープンDAYを幼稚園で開催。（5/25、6/20、7/6、9/12、9/21、1/16、1/18、2/23、2/25 計9回）
- 園舎1階奥の大人用トイレと園庭の下水管が時折詰まったため、トイレの下水管について調査を行い、節水型トイレの導入により距離の長い下水管で汚物が流れきれない場合があるという状況であることが判明した。水を流す回数を増やす、バケツに汲んだ水を流すなどの対策で様子を見ることになった。また、このことからトイレの詰まりと園庭の下水管の詰まりは別の理由であることが判明したため、再度園庭の下水管が詰まった場合は別途調査が必要となる。
- 幼稚園保護者の協力により、園庭の危険樹木を3本伐採した。
- 他の幼稚園や森のようちえんの見学を受け入れ、自然保育の研修を行った。
- 長野県自然保育実施研修事業を利用し、「森のようちえん」の魅力と教育効果について、学園創設者で特定非営利活動法人森のようちえん全国ネットワーク連盟理事長の内田幸一氏の保護者向け講演会を開催した。（6/17、7/14 計2回）

Ⅲ. グリーン・ヒルズ小学校 事業報告

1. 教育目標の達成度

2017年度は、以下の3項目を重点目標とした。それぞれの達成度は以下の通りである。

(1) 自然体験の重視

飯綱高原の豊かな自然の中にある特性を活かし、自然との触れ合いを増やしながらかつてきた。りんご園プロジェクトの一環として山岸校長が「りんごの花のつくり」の授業をおこなったり、鳥の古巣を探したりする活動を通して自然環境に対する興味関心を高めていった。また、りんご栽培を通して季節の変化、自然のしくみ、人とのつながりなどに対する理解を深めた。

(2) プロジェクト学習を通じた自律性の醸成

小学校全体でのプロジェクトとして「りんご園プロジェクト」に取り組んだ。一年を通してりんごの栽培の中で様々な事象に気づき、これらを学習に展開することができた。また、栽培から販売や加工などの中で、時間をかけて「りんごミーティング」を開き、子ども同士意見の食い違いやぶつかり合いを重ね、自分の主張だけでなく、相手の意見を尊重する姿勢が育まれた。学年に応じた個人プロジェクトにも取り組んだ。特に低学年は「プロジェクト」の入門として丁寧な導入を心がけ、子どもたちの達成感につながった。

(3) 国際社会での発信力の育成

自ら考え、自ら学ぶ力をつけていくために、学習のしくみを整え、進捗表や教材の整備、学習履歴の様式の検討などを行い、一人ひとりを大切にするという願いを具体化した学習指導のシステムを整備進めた。また、外国語活動については、保護者からも継続的に高評価を頂いているので講師との連携を密にし、より充実したものになるよう努めた。

2. 組織・体制 (2018年3月末日状況)

在籍数 18名 (定員60名)

教職員数 11名

本務教職員 5名 (校長1、教諭2、養護教諭1、運転・事務1)

兼務教職員 2名 (教頭1、補助教員1)

非常勤教職員 4名 (講師1、英語指導2、補助教員1)

3. 2017年度事業報告

(1) りんご園プロジェクトを小学校全体のプロジェクトとして活動し、すべてを一から学びながらりんご栽培を体験することができた。また、栽培や収穫だけでなく、自分たちで作ったりんごの販売体験やお菓子作りに至るまで幅広く学び、様々なメディアを通じてグリーン・ヒルズ小学校を広く紹介する機会となった。保護者をはじめ様々な地域の方々の協力を得ながら来年度につながる活動となっている。

(2) 本年度は、在籍児童の状況を鑑み、低学年、高学年の2学級編成とした。本校では2学年ごとの学級編成を基本としているが、学級としての集団の人数を考慮した措置であるので、基礎学については、2学年毎の少人数クラスで行い、きめ細かな指導を目指した。

- (3) 「相互の関係性を基盤にして、一人ひとりの自律性を育む」という教育目標の実現を目指し、年間を通して教職員研修を実施した。その中で「プロジェクト」「基礎学習」「自治活動」の3分野のカリキュラムについて、実践内容を精査するとともに、教職員間の共通理解を深めることができた。合わせて、教育の内容や方法をより妥当性のあるものにするため重点目標の見直しに努めた。
- (4) 学級での活動費として、学級会計を導入し宿泊行事、学級での体験活動などに使用した。予算をたて年間を見通した活用を目指したが、まだ十分とは言えず次年度以降に課題を残した。

IV. グリーン・ヒルズ中学校 事業報告

1. 2017年度教育目標の達成度

小学校の欄に同じ

2. 組織・体制 (2018年3月末日状況)

在籍数 15名 (定員40名)

教職員数 14名

本務教職員 3名 (教頭1、教諭2) ※事務職員は、4～7、11～2月在職

兼務教職員 2名 (校長1、養護教諭1) 兼務事務職員 8～11月在職

非常勤教職員 9名 (講師3、英語指導2、美術指導1、寮職員1、)

3. 2017年度事業報告

- (1) 生徒の発達状況を踏まえ、1・2年生クラスと3年生クラスの2学級編成とし、同じ目標に向かいながら、担任や友達とのより良い関係性を目指した。同学年での指導ということでスムーズな学級運営につながったと思われる。
- (2) グリーン・ヒルズ小学校からの新入学だけでなく、他の学校からの転入学の生徒もあり、プロジェクトの入門について、丁寧なオリエンテーションを行った。これにより、個人プロジェクトもテーマが多岐にわたった。2月の学習発表会は、昨年同様、市街地の公民館での開催となり、ステージ発表やブース発表など工夫を凝らした発表ができた。
- (3) 卒業後の進路について、一人ひとりが将来を見据え自分の力で進路を決めていくことができるよう、学校見学なども含めて丁寧な進路指導を行った。
- (4) 学級での活動費として、学級会計を導入し宿泊行事、学級での体験活動などに使用した。予算をたて年間を見通した活用を目指したが、行事や体験的活動の活動費についてはさらに綿密な見通しを立てていく必要がある。